

平成 13 年 7 月 27 日

各 位

会 社 名 株式会社ディスコ
代 表 者 名 代表取締役社長 溝呂木 齊
(コード番号 6 1 4 6 東証第一部)
問 合 せ 先 取締役 経営企画室長 中山 勉
(電話番号 03-3743-0111(代表))

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 13 年 5 月 9 日の決算発表時に公表した業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 14 年 3 月期連結中間業績予想数値の修正 (平成 13 年 4 月 1 日 ~ 平成 13 年 9 月 30 日)
(単位: 百万円、%)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想 (A) (平成 13 年 5 月 9 日発表)	22,000	2,000	1,100
今回修正予想 (B)	17,000	500	1,000
増減額 (B - A)	5,000	2,500	2,100
増 減 率	22.7	-	-
前期 (平成 12 年 9 月中間期) 実績	36,046	10,425	5,752

2. 平成 14 年 3 月期中間業績予想数値の修正 (平成 13 年 4 月 1 日 ~ 平成 13 年 9 月 30 日)
(単位: 百万円、%)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想 (A) (平成 13 年 5 月 9 日発表)	17,500	2,100	1,500
今回修正予想 (B)	11,500	900	600
増減額 (B - A)	6,000	1,200	900
増 減 率	34.3	57.1	60.0
前期 (平成 12 年 9 月中間期) 実績	29,366	8,982	4,755

3 .平成 14 年 3 月期連結通期業績予想数値の修正(平成 13 年 4 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日)
(単位：百万円、%)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想 (A) (平成 13 年 5 月 9 日発表)	55,000	8,400	4,800
今回修正予想 (B)	37,000	1,400	200
増減額 (B - A)	18,000	7,000	4,600
増 減 率	32.7	83.3	95.8
前期 (平成 13 年 3 月期)実績	74,112	21,545	11,811

4 .平成 14 年 3 月期通期業績予想数値の修正 (平成 13 年 4 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日)
(単位：百万円、%)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想 (A) (平成 13 年 5 月 9 日発表)	44,000	7,800	5,300
今回修正予想 (B)	25,000	2,400	1,600
増減額 (B - A)	19,000	5,400	3,700
増 減 率	43.2	69.2	69.8
前期 (平成 13 年 3 月期)実績	57,465	17,411	9,201

5 .理由

売上高

半導体業界、電子部品業界は昨年度後半より急速な生産・在庫調整局面に入り、以降、半導体メーカー、電子部品メーカーの設備投資意欲も急速に減退してまいりました。背景には、半導体や電子部品等の在庫循環的な要因から、これまで IT を先導してきた米国景気の減速ないしはリセッション入り、パソコン、携帯電話といったデジタル製品の成長の一服感、通信キャリアの設備投資抑制、最終需要製品での各種次世代製品までの端境期入りなど種々の要因が考えられますが、今回のシリコンサイクルの下降局面では、当初の想定以上に調整速度が速く、また、調整が長引くものと予想しております。

以上のような状況の下、現時点での受注や引き合いの動向が当初の想定を下回って推移していること、回復時期につきましても、未だ不透明であることから、平成 13 年 5 月 9 日発表の中間期並びに通期業績予想を各々上記のとおり修正するものです。

経常利益、当期純利益

連結、単独共に、売上高の予想修正に伴い利益予想も修正するものです。

売上、受注の減少に合わせ、既に研究開発費などの中長期的見地から必須の政策的費用を除き、人件費、労務費をはじめとする各種経費の削減、抑制などを進めておりますが、売上高減少のペースがハイピッチで、かつユーザー業界の動向も日を追って厳しくなっております。このため、特に収益と費用の動きのミスマッチが大きい上期の損益状況が非常に厳しく、また通期でも5月9日発表の予想を下回る見通しとなるものです。

引き続き受注の回復時期を探ってまいります一方で、今後も更なるコスト削減策を検討してまいります。